

①学校名:	岐阜協立 大学(私立)	②所在地:	岐阜県大垣市北方町五丁目55番地		
③課程名:	トヨタ生産方式とカイゼンリーダー養成プログラム	④正規課程/履修証明プログラム:	履修証明プログラム	⑤開設年月日:	令和2年9月1日
⑥責任者:	中川裕司(本学経営学部教授・大学院研究科長)	⑦定員:	20名	⑧期間:	6ヶ月
⑨申請する課程の目的・概要:	<p>国内外の環境が劇的に変化するなか、日本は人口減少にともなう労働力不足や「人生100年時代」での多様な労働力の活用など、あらためて「生産性改革」が喫緊の課題となっている。従業員の生活充実のためにも働き方改革のニーズは高まっているが、仕事そのものの見直しなしに労働時間を短縮するだけでは、企業活動として受け入れられがたく、働き方改革は掛け声倒れになりやすい状況にある。</p> <p>本プログラムは、ものづくりをはじめ、物流やサービス業にいたるさまざまな現場を管理する人材を対象として、トヨタ生産方式による生産革新活動を実践する専門職として「カイゼンリーダー」を位置づけ、生産性改革活動を整備・推進する人材として養成することを目的としている。それぞれの業界には、それぞれにノウハウがあるだろうが、効率性の観点からコストや時間管理を見直す意識の形成と、スキルを身に付けることで、各々の職業能力を限られたコストと時間の中で最大限に発揮する、より実践的な職業能力を育成することができる。また、作業改善の実績豊富な自動車産業の知見を、製造業全般や物流、サービス産業の現場に広めることで、作業カイゼン・スキルを身に付けた人材が多方面に活躍することで、働き方改革の推進と企業活動の効率化を同時に推進でき、労働力人口が減少していく地域社会の活力維持、高揚に寄与することが期待される。</p> <p>これまで多くの生産性改革に係る講座においては、理論に関する科目と実践に関する科目とは区別されてきた。本事業では、現場における実践を大学院という場面のなかで、体系化することを企図している。「カイゼンリーダー」養成において、現場での実践力・応用力など管理者に求められる高度な専門性を育成するためには、現場で活かすことのできる、実践と理論の融合を強く意識した体系的なカリキュラムが必要であると考えたからである。</p> <p>本プログラムでは、製造業(工場)や航空関連企業(ロジスティクス)、サービス業(ホテル)など幅広い分野において、トヨタ生産方式による生産革新活動のコンサルティングで数多くの実績をもつ講師陣のもと、幅広い経験に裏打ちされつつも、体系化されたカリキュラムを通して、受講生一人ひとりが自身の現場に即して研究し、トヨタ生産方式の「生産性改革」に関わる職業実践的能力を身に付けることができる。</p>				
⑩4テーマへの該当の有無	中小企業活性化	⑪履修資格:	学校教育法第90条に規定する大学へ入学することができる者		
⑫対象とする職業の種類:	製造業・物流業・サービス業などに所属する、おもに現場を担当する管理監督者				
⑬身に付けることのできる能力:	(身に付けられる知識、技術、技能) トヨタ生産方式に関するカイゼンの知識 トヨタ生産方式をベースとしたカイゼン実践力		(得られる能力) 現場における課題発見力 課題解決力 カイゼン・マインド プレゼンテーション能力		

⑭教育課程:	<p>製造・物流・サービス業などさまざまな分野において、トヨタ生産方式による生産革新活動を実践する専門職として「カイゼンリーダー」を位置づけ、生産性改革活動を整備・推進する人材として養成するため、当プログラムでは、理論に関する科目と実践に関する科目の融合を強く意識したカリキュラム構成となっている。</p> <p>トヨタ生産方式とカイゼンリーダー養成プログラムは、教室または企業と連携したカイゼン対象職場をフィールドとする6つのセッションと、受講者自身の職場で実施する計48時間の課題研究で構成される。</p> <p>第1セッションでは、カイゼン・マインドを醸成するための『チームビルディング』からはじめ、『トヨタ生産方式 基礎』で基本的な知識や思想の習得を受けた後、今後の自職場におけるカイゼン目標の立案を図るため、『ケーススタディー』で先行事例の知識習得やグループ討議からの客観的な視点で自職場の課題を整理する。</p> <p>第2セッションから第5セッションでは、指定するカイゼン対象職場における『カイゼン実習』で各回のテーマに係る講義のあと、フィールドワークを通じた実践的な知識の習得と、その知識習得を更に補完するために『トヨタ生産方式 基礎』の講義を受ける。</p> <p>第1セッションから第6セッションまでの期間(24週間)において、各セッションの間に受講者は第1セッションで立案したカイゼン目標を達成するための活動として、週2時間、講師陣のサポートを受けながら『課題研究』を行う。『課題研究』では、各回の実習と講義で構成されるセッションで積み上げた知識と経験を活かしながら、カイゼン目標への到達を目標とする活動を行う。</p> <p>第6セッションでは、『課題研究』で得られたカイゼン成果の発表のほか、トヨタ生産方式に係る学習内容の理解度を測る筆記試験、トヨタ生産方式導入に関する有識者の特別講演を実施する。</p> <p>自律的に自身の目標を設定し、段階的な短期集中型のセッションと自職場での「課題研究」を通じて、実践しながら成果をあげていくカリキュラムであるため、受講者はトヨタ生産方式に関するカイゼンの知識やトヨタ生産方式をベースとしたカイゼン実践力、現場における課題発見力、課題解決力、カイゼン・マインド、プレゼン力など、「カイゼンリーダー」に必要な知識や能力を体得することができる。</p>					
⑮修了要件(修了授業時数等):	<p>全科目を下記の時間以上受講し、各科目の成績が合格であること。</p> <p>①チームビルディング (授業時間 3時間) → 3時間 ②ケーススタディー (授業時間 15時間) → 15時間 ③カイゼン実習 (授業時間 32時間) → 24時間以上 ④トヨタ生産方式 基礎(授業時間 43時間) → 34時間以上 ⑤課題研究 (授業時間 48時間) → 48時間 総授業時間141時間 → 124時間以上</p> <p>さらに、自職場における取り組みとカイゼン成果について発表できること。</p>					
⑯修了時に付与される学位・資格等:	履修証明書					
⑰総授業時数:	141 時間	⑱要件該当授業時数:	140時間	該当要件	⑲要件該当授業時数 / 総授業時数:	99%
⑳成績評価の方法:	授業への参画状況と意欲や姿勢、授業内課題、筆記試験、授業外実習の状況などにより各科目ごとに成績評価を行う。					
㉑自己点検・評価の方法:	教育課程を点検評価するために「岐阜協立大学 教育研究推進懇談会議」において報告を行い、企業等の意見を反映させプログラム改善を行う。学校教育法第109条第1項に定める評価を実施の上、自己評価結果を岐阜協立大学自己評価委員会へ提出し、講評を大学のホームページに公表する。					
㉒修了者の状況に係る効果検証の方法:	プログラム修了までに、受講者は各々の「カイゼン・ビジョン」を描き策定する。この「カイゼン・ビジョン」に基づいた活動が実施されているかプログラム修了後に検証するため、所定の用紙に記録し自己評価を報告してもらう。その報告書をもとに本プログラムの効果を検証する。					
㉓企業等の意見を取り入れる仕組み:	<p>(教育課程の編成) 「岐阜協立大学 教育研究推進懇談会議」から意見を聴取し、その結果を教育課程の編成に反映させる。また、受講者の所属する企業・団体等にアンケート調査を実施し、教育課程に関する意見・要望等を聴取して意見を取り入れる。</p> <p>(自己点検・評価) 「岐阜協立大学 教育研究推進懇談会議」による自己点検および評価に係る会議を年に1回開催する。適格なプログラムであったか第三者が自己点検や評価ができるよう、会議には①受講者による授業評価アンケートの結果、②プログラムを通じて得られたカイゼン成果、③受講者の所属する企業・団体等へのアンケート調査結果に関する資料を提示する。</p>					
㉔社会人が受講しやすい工夫:	社会人が受講しやすいように6つのセッションに分けた集中型プログラムとしている。宿泊をとまなうセッションは、大学が宿泊と食事を準備する。受講期間中は、講義や実習以外の機会でも自己学習で生じた疑義や課題解決を図るため、Eメールや電話での講師への問い合わせ等ができる。また、受講者のやむをえない都合でセッションを欠席した場合は、科目担当者と日程調整の上、補習を設定することができる。					
㉕ホームページ:	(URL) https://www.gku.ac.jp/universityarea/lifelong_learning/bp.html					

事務担当者名:	塚原康之	所属部署:	教務課
連絡先:	(電話番号) (E-mail)	0584-77-3516 kyoumu@gku.ac.jp	

- * パンフレット等の申請する課程の概要が掲載された資料を添付してください。
- * 様式に記載いただいた内容と欄外の「※集計用データ(文部科学省使用)」に記載の内容が、一致しているかを必ずご確認ください。